

中斎塾東京フォーラム
平成 31 年度（令和元年）第 8 回講話

令和元年 9 月 14 日
於 湯島聖堂

おはようございます。今回の台風・停電で、被害被った方いますかね。酒井さんの所は多少ありましたか。

酒井理事ーがれきの屋根が飛びました。

多少ではないですね。

これだけ災害が続くと、そろそろ大きいのが来るというリハーサルが繰り返されていると感ずます。お互いに準備した方がいいですね。ちなみに私が準備している内容を申しあげると、1 ヶ月の半分は外泊です。地震に備えてホテルの枕元に靴は置いていたのですが、最近時間には余裕があると、その靴を紐で縛って宙に飛ばないように括りつけています。ところが、ホテルによっては括りつける所が無い。最近火事になったときのことを考えて、あるホテルでは煙を吸わないように頭からすっぽり被るようなビニールが置いてあります。寝る前にそういう物が無ければ、近くのスーパーでもコンビニでも行って袋を買って枕元に置く。枕元に置くものが増えますが、この二つでよいと思う。

あと私が実行していることは、移動中は飲み物と食べ物。若干の食べ物で良いのですが、いつも頭の中にあるのは、ある会社の社長が料亭で何も食わず帰ろうとした。女将が呼び止めて「食欲がなくてもチョコレートだけは食べたほうが良いですよ」と言って、帰りがけにチョコレートを渡して、その場で食べさせた。そのチョコレートを食べた人は帰る途中で脳梗塞をおこして運ばれたが、チョコレートがお腹に入っていたために、若干のエネルギーがあり生き延びることができたという話がありました。たかがチョコレート、されどチョコレートですね。ということで、飲み物と若干の食べ物は意識しています。

私の兄が大網白里に住んでいます。今回の風騒ぎで、電話を入れたら電話を取らない。いつも電話を入れると「大丈夫。津波は家に来ない」と言います。それで、兄の息子に連絡を取ったら、夜の 10 時ぐらいに父から連絡が来て、停電して断水でどうにもならないので娘の所に避難をしたとの事でした。家内と一緒に横浜に泊まっていたら、テレビで大網白里が停電して断水。どこそこでお水を配っていますと出ているので、これは被害が本当にあったなと感じたわけです。そういう面ではテレビも新聞も機能を果たしていると思いました。だんだん身近な人の問題になってきましたから、自宅にいる時に何をを用意するか。出掛ける時には何をを用意するか。それからもうひとつ、疎開をしたらどこに疎開を

するか。

6月は温海（あつみ）温泉という所に泊まってきました。震度6の地震が夜中にあり、だいぶ揺れて避難をさせられました。避難させられた時に歩きながら周囲をよく見ていたら、天井が崩れ柱が少し倒れていた。歩く所に若干の瓦礫があり、真っ暗な中を下りていった。そしたら重油の匂いがした。下手すると爆発だなと思い避難をした。翌朝ご飯とか無いだろうなと思ったが、早く目覚めたので下りていたら、おにぎりが作ってあった。味噌汁があり、おしんこがある。これで十分ということで、お金を払おうとしたら「お金は頂きません」と言います。人から借りるのは嫌だなと思いました。チェックインの時、売店にお饅頭があったので土産に買いました。その饅頭を持って避難所に行ったら、皆さん着の身着のままで来ていたので、周りに座っていた人に「お饅頭ですけど食べますか」と言ったら、誰も拒否しない。皆さん有難うと言って、あっという間に無くなった。幸いその避難所には飲み物の自販機があった。

そうするとずっと気になりましてね。人から物を借りたら、やっぱり返さなきゃいかんというものが強烈にある。そこで先月、無理やり時間を作って、また同じ温泉宿に行つて泊まりました。フロントで「前回お金を払わなかったから気になって泊まりに来たが、他にもそういう人いる？」と聞いたら、「いいえ。お客さんは珍しいですね」と。今はそういう時代なのかと感じました。そのあとは南三陸へ行きました。東日本大震災の時は、家内と一緒に一週間ほど南三陸を自分が運転して動き回りました。あのときはカーナビが使えなかった。カーナビで見ると海の中を通る道ばかりを案内していた。今回は南三陸がどうなっているか見たいと思い出掛けたのですが、途中で温海温泉があったので泊まりました。温海温泉は日本海側なので、日本海側を車で横断し太平洋側に出て南三陸に行った。すると気仙沼線が廃線になっていました。復興してないですね。つくづく思ったけれども、政府は金をばら撒けばいいと思っているようです。金をばら撒くのは上から目線でばら撒いているだけ。地元に行ってみたら、復旧用の工事と…まだ復旧と使っています。復興の工事と両方。だけど予定していたものは、あらかじめお金を使っているから、また違う方へ工事する人は流れて移っていく。

日本の国は、やっぱり自助努力でやるしかないのかなという気がしました。援助という言葉は一見よさそうに思うけれど、あんな失礼な科白はない。いろいろな国に援助をするという言い方もある。援助は相手を侮辱した言葉だと私は思います。

あちこちに話が飛びながら喋りますけど、「六中観」は大体みなさん御存知ですよ。六中観の中に「壺中天あり」という科白があります。壺の中に別天地がある。人間は忙しくいろいろ駆けまわったりしていくと心が擦り切れてくるから、自分が我を忘れて没頭できる、今でいけば趣味の世界を持ちなさいというものです。

私は、いま詩吟の世界が別天地になっています。詩吟を吟じていると面白くないことがあっても忘れてしまって、そこに没入できる。そうすると、世間的にストレスのある人も

自分の趣味の世界に没頭すると、嫌なことみんな忘れられる。

それで教育吟詠大会が来年の5月にあり、その大会の中で中斎塾の皆さんは、いつも大勢で吟ずる合吟をしていましたが、独吟でもよいです。2人でもよろしいです。そういうことで、独吟ができるアットホームな緑村流の大会は年に1回。5月に行います。その時にお1人だけで出来るチャンスを作りました。1人ではちょっと自信がないなら2人でも3人でもいい。猪瀬前理事長にその話をして「どうですか」と言ったら、「六中観だったら吟じたい」と言います。でも普通、漢詩は絶句です。六中観は四文字です。私は四文字で吟じることは教わっていません。詩吟は細貝先生に教わっているのです、細貝先生に「六中観だったら、参加したいという人がいるのですが、教えてください」って言ったら、「私も急には出来ないから調べてよく練習してみる」ということで、やっと昨晚教わりました。

それで、いま詩吟を習っていて、私だけの詩吟を覚えたいという方がいたら、まず、いま教わっている人に、『教育吟詠詩集』という本をお渡しします。そういう方いますか。自分だけの詩吟を身につけたい。

ーひとり。では差し上げます。それで、この中から良いなと思うものを選んでください。来年の5月です。

今日は御紹介いただいた方がお出でいただきました。『太極の道』という本を借りました。ぱらぱらと開けて見ました。皆さん方に馴染みのある科白が入っています。「知行合一」が目につきます。それから「誠の道」我々が勉強しているものと同じものがいっぱいあります。

前にも申しあげていますが、私共が学んでいる陽明学は、現地へ行く。原本を確認する。この本は、そういう言葉がいっぱい入っていますので、楽しい本です。「不惜身命」もある。これは貴乃花か。温海温泉に行った時、柏戸記念館があったので寄ったのですが閉まっていた。柏戸も忘れられてきていますね。この記念館に来る方は大型バスで御年配の方が団体で来るということです。そういうことで、いろいろ書いてありました。これは楽しみでございます。

《恒例の質問》

・夏休みがございましたので、夏を中心とした2~3ヶ月、自分にとって良い日が続いたなと思う方。

他人から見て大したことないねと思っても、自分にとっては主観で良いことが続いているなと思えば、良い日が続いた。それが良い循環を生んでいきます。

・夏を中心にして、ここ2~3ヶ月嘘をまるでつかなかったと言える方。

・比較的、嘘はつかなかったなあと思う方。両方合わせると、全員ということになりますね。

嘘はね、後始末が大変ですよ。先ほど難波さんと話をした中で、韓国の話になりました。韓国は嘘に嘘を塗り重ねている。国家として、もうどうにもならなくなってきています。ただヒトラーが戦前語った事として、大きな嘘を国としてつき続けていけば、その嘘は本物になるという話がありました。安岡正篤先生・木内信胤先生でいくと、国家が国民に対して 100 年嘘をつき続けることはできない。したがって共産主義は崩壊をした。最初ちょっとした嘘が膨れあがっていったら、個人の時は修復すれば何とかなる状態。でも国家としてはどうにもならない。でもそれをつきぬけると、まわりの国が信じてしまう。それをさらに超えると国が滅亡する。やっぱり嘘はよくないねということが個人でも国家でもあります。

・この夏は、有難うと言い、有難うと言われることが比較的多かったと思う方。

それでちょっと余分なこと。最近では違った科白を言うようになりました。

心の素直な方は体が柔らかい。まわりから頑固者で強情で、まったくしょうがないなどという人は体が硬い。

(塾長が前屈をする) 体が硬い人 (手が床から 30 センチぐらい) 70 代。まだ硬い人、60 代。普通かなというのが 50 代。ここらへんまではまあいいですね。40 代が (手が床につく) これ。30 代が (握り拳が床につく) これ。20 代が (掌がべったり床につく) これ。ここから先は段々柔らかくなります。

会員ー凄、凄。

だから心が素直でね。あと 10 代もあるけれど 10 代はやらない。今日は思う通りにストレッチしてないから危ない。きちんと毎日体の手入れをしないと駄目。最近、体の手入れで実感していることは、健康保険証、それから年金も、年金の通知が来た時は「老齢年金」という書き方をして、けしからんと思う。60 歳を過ぎると老齢って国が言うのです。

若い時は体の手入れをしなくても毎日の日常が、それが手入れになる。それが 60 歳ごろになると、手入れをしないと元通り動かない。これは私の体験です。60 代になったら、だいたい 15 分ぐらいの手入れ。60 代後半になってきたら 30 分程度は要りますね。70 歳を超えますと、1 時間は手入れしないといけないな。

さらにもっと元気で 100 歳を目指してとかでしたら、3 時間、午前中いっぱい体の手入れをしてなきゃいけないですね。健康法の話です。

今、何時間やっていますかと聞きませんが、私はだいたい 1 時間やります。出掛けている時は別として、自宅にいる時 30 分は自転車に乗ります。

・夏を中心として、自分磨きを忘れずに一生懸命やっている方。自分を磨く、自分磨き。

事上磨錬です。

- ・ 昨晚寝るときに、明日以降を過去形でイメージして眠れた方。

《論語の視点》(季氏篇 2)

【二】孔子曰く、天下 道有れば、則ち礼楽征伐、天子自り出づ。天下 道無ければ、則ち礼楽征伐、諸侯より出づ。諸侯より出づれば、蓋し十世にして失わざること希なり。大夫自り出づれば、五世にして失わざること希なり。陪臣 国命を執れば、三世にして失わざること希なり。天下 道有れば、即ち政 大夫に在らず。天下 道有れば、即ち庶人議せず。

ちょっと意識して読みます。足利尊氏が将軍になり、足利幕府が成立した。自分の意志で国家は、日本の国は動いた。良かった。しかし足利幕府はすぐ秩序を失って、管領細川氏に権力が移ってしまった。「十世にして失わざること希なり」10代将軍・足利義隆を廃し11代将軍に足利義澄を擁立する事件が起きました。クーデターです。足利幕府は、最後の将軍が15代・足利義昭。織田信長が足利義昭を京都から追放した。これでいけば、もう私を助けてくれる人はいないのかと、足利義昭は浪々の身になった。

足利幕府は細川家に力が移り、その次は三好長慶に移った。もう陪臣ですね。この頃は下剋上ですから、三好長慶が大きな顔をしていたら、今度はその下の実力のある松永久秀が出てきた。でも信長に敵対し松永久秀は自害した。ということで、足利幕府は滅亡しました。ちなみに鎌倉幕府は源実朝が暗殺され、源氏将軍が三世で終わった。北条時政が実権を握りました。北条時政より北条政子の方が有名になりますが、論語に書いてある事は現実の事だなと感じます。

「天下道有れば、則ち政大夫に在らず。天下道有れば、則ち庶人議せず」

その国に道が無ければ、秩序が崩壊して、この国は駄目になる。国家に対して信頼がなくなったら、一般大衆は議す。今は香港が一番分かりやすい。香港であれだけのデモをしている。「庶人が議している」いい実例だと思います。そしたら、韓国をみましょうか。これに照らし合わせていくと文大統領は、腹の中は親北、反日。北朝鮮におもねって、日本に対して色々と言文をつけてお金を取るのが今までの路線だったけれども、完全に日本とは縁を切り中国・ロシア・北朝鮮と組する。北朝鮮が韓国を吸収し合併をする。という流れを一所懸命に作っていますね。日本はそれに対して大きく舵を切りました。大きく舵を切ったということが、あと5~6年するとはっきり分かるようになると思います。

論語の部分で、日本の歴史で比較した物。それから現実の流れも、そこから同じ文脈で説明ができます。

【テーマ】 《ひらめき》

ひらめきについて中斎塾フォーラムで申し上げているものは、木内信胤先生が言われた総合的直観力。木内先生の総合的直観力は一言で言うから、わかる人は分かるのだけど、わからない人は、何だこれとなります。

【紹介書籍】

『ひらめく人には理由がある』 齊藤勇著 日本教文社

『カンの構造－発想をうながすもの』 中山和正著 中公新書

『ひらめく人には理由がある』大学の先生で比較的ややこしく書いてある。『カンの構造』は技術屋さんだから、ちょっと分かりにくい言葉だけれども直感の説明が書いてあります。

今日のテーマを「ひらめき」と書いたのは、悟りを得る方法ということになります。ひらめきは悟りみたいな言い方がありますよね。修行するものと同じように思う。極めると言ってもいいし、悟りと言ってもいいし、総合的直観力と言ってもいいわけです。

いつの頃だったかな、悟りたいって強く思っていました。思ったけど、まだ悟ってないですけどね。まわりの人の話を聞いていて、悟ったという類の言葉を言った人はいない。色々な修行をたくさんするから悟れるというものでもないし、日ごろ何気ない言動をしている中でも、ふっとそういう所に行く場合もある。私も自分で考えて、ふっとでも何でもいいから悟るというものを一回してみたいと思っていますけど、まだならんですね。

前も何回かお話ししましたが、思いおこしてみると漢文を教わった石川梅次郎先生は九段の坂を下りてきたら、一瞬体が浮いた。飛んでいるような気分だ。あれは凄かった。あれは心身脱落だと言います。身も心もストッと落ちこちる。脱落。あの先生も、かなりよい加減の人だから、先生は学者になりたければ「四書五経を暗記してごらん。それだけで学者に十分なれるから」と言います。また学者として通用するためには3つ条件があるから、それをクリアすればいい。まず徹夜してでも勉学に勤しむことのできる体力を持ちなさい。健康でなければいけない。それから学者同士のお付き合いの中で、貴重な本を見つけたとき1冊しかない場合はしょうがないけど、稀覯本が見つかったとき2冊は買いなさい。何故ならば自分が欲しい本を誰かが持っているときには、自分が持っている本と交換する。だから、そういう時は金に糸目をつけず買う。したがってお金が自由になること。それから、時間に束縛されない。会社に勤めて決まった時間に束縛されて働く…そんなの関係ない。自分の思うとおりに生きる。お金が自由に使えて、健康で、自分のやりたい時にやりたいことがやれるような環境に身をおくことだと言われました。学者にならなくても、他のものみんな同じようにいくのではありませんかって言ったら、学者はそれでいくんだよとの事です。でも、だいたい見ていると石川先生は亡くなる寸前まで本を買っていました。

読めないんじゃないかと思うのだけど、蟻地獄みたいに本が積んである部屋に住んでいましたから、凄い生活だなと思います。いろいろ特殊な習慣を持っている人達は、後世の学生に影響を与えるから、よほど考えなきゃいけないなと思います。若い人は変なとこだけ真似しようと思しますから。

それじゃ、ひらめきの話に戻します。中斎塾フォーラムで申し上げている縦の学問と横の学問の横の学問を広げていくと、どんどん本が増えていきます。縦の学問は本が残るより、心の中に残っていきます。ということで、横の学問をすると知識が増える。知識が増えに増えてくるといっばいになります。心の中もくたびれます。だから、ちょっとお休みをしなきゃいけない。

いま回している本の中でいくと、本を読んで徹底的に勉強すると、横の学問、知識が増える。肝心なことは「培養器を置かねばならん」と書いてあります。で、私流の言葉でいけば、発酵させろ・熟成させろとなります。お酒が好きな方は、ワインで貴腐ワインというのがありますね。かなりの年月、発酵させるでしょう。ずっと長い間、寝かせて置く。知識も寝かせとけ。それがこの『カンの構造』の中に書いてあります。培養器という説明になっています。

いわゆる悟るという時は、たくさん知識が入って、それを培養していく。しばらく熟成させておく。普段の仕事を一生懸命やっているけど、くたびれたから、ちょっと散歩しよう。全然違うことをやってみようとか。全く違うことをやると、突如として、なにか天から舞い降りてくる。または、心の奥からインスピレーションが湧き起る。湧き上がる。湧き起ったときに、これだと思う。わかったというのは、そういうことです。わかるということは理屈ではなく、理論で $1+1=2$ とやって、理屈で分かるのは、わかったとは言わない。膨大な知識を踏まえて、熟成して、しばらく寝かせておいた物をベースにして、ふっと分かる。両方とも通じているのは、突然悟るということで、ふっと分かった物が本物の分かる。本物の悟りということが、この 2 冊の本に書いてあります。その中の説明で、面白いものがありました。

ひとつは夢の話。どこまで本当かは分かりませんが、ある人が仕事で遠洋漁業に出たが台風に遭い船が沈没した。気がついた時には救命具をつけて浮かんでいた。そこへ運よく中型の船が来て助かった。それで引き上げられて良かったと思って、また氣を失ったのでしょうね。6時間ほど寝ていた。それで、ふっと目が覚めたのではなくて、強烈な夢を見た。夢の中に白髪の老人が出てきて、お前はすぐ救助された場所に戻れ。戻れ戻れという夢。それで飛び起きて、なんだか分からないけど強迫観念に襲われて、私を助けてくれた所にもう一度戻してくれと言う。船員が、せっかく助けてやったのに、おかしくなったのか。それを船長が聞いていて、海のことだから何かあるかもしれないよということで救助した場所に戻ったら、6人の船員が板切れに掴まってぶかぶか浮いていた。夢って、そういうこ

ともあるのかなという紹介です。

そういう話だと、私はカルネアデスの舟板を思い出しますが、知りませんか。松本清張が書いた本ですけども。

例えば、たまたま船で旅行をしていたが、大嵐に遭い海に放り出されて、気がついたら板切れに何とか掴まって浮いていた。その時に、必死の形相で板切れに掴まりたいと言って向かってくる人がいる。ここからが問題なのですが、助けてと言って寄ってくるが、2人一緒に掴まると沈んでしまいそうな状況。自分の子供だったら、どうするか。自分の亭主だったら、自分の親だったらどうするか。ということで仮の設定ですけど、助けてと言ってきたときに、自分が板切れから手を放して、我が子だったら助けようとするかもしれないが、氣にくわない人だったら向こう行けってやるかもしれない。そういうことを考えてみませんか。というのがカルネアデスの舟板で、松本清朝の本にあります。またちょっと違った書き方ですけどね。

そうすると、ここに書いてある「ひらめき」は、誰でもあるんでしょうね。誰でもあるけれども、どれぐらい膨大な量を、特に雑多な知識を持つかということです。

畑中さんは雑多な知識いっぱい持っていますよね。それで、人生で良いことやってますでしょう。人生で悪いことやっている人は、なかなか「ひらめき」は少ないかもしれない。良いことやっていて、雑多な知識があつて、所々に専門的な知識が入ってくる。どなたでも専門的な知識が、一本深堀があつて、雑多な知識がある。そういうものが混ざり合つて、それを熟成させたところで、ふっと氣がつく。

例えば、この「ひらめき」は、日頃言い続けている。また、言い続けられていると、咄嗟のときに出ますよ。

畑中さんの顔を見たら、天風先生のことをやっぱり思い出します。天風先生が小さい時、おじいさんの所で美味しい物を食べながら話を聞いていた。人生は、人生はと言ったかどうかは知らないけれども、剣は度胸だ。度胸、度胸。具体的になんて言ったんですって。

畑中会員一そこまではちょっと覚えていません。

残念。とにかく天風先生が、剣を使うときは技巧ではなくて度胸だと小さい時から叩き込まれた。現実に中国へ渡つて、白刃切り結ぶところで最初は震えた。ところが、敵がやって来て、相手が振りかぶって襲ってきた時に、頭の中に浮かんだのは、おじいさんの言った度胸じゃで、はっと気がついたらば、相手が倒れていた。そういうことで、ひらめいたのも自分が生死。生きるか死ぬかの瀬戸際になると浮かぶのです。ひらめくのです。

私自身の経験で言うと、仕事をしている中で、どうにもならん。もうどうとでもせいと思つた時があります。このまま商売してても、もうどうにもならない。どうとでもなれと、

ふてくされているような感じです。完全に頭の中から、いろいろな問題全てほったらかして、良い言葉で言うと無念無想でしょうか。頭の中からっぽになって大の字になる。ふっと気がついたら、解決策が体の奥から湧いてきて、どんどん手を打っていったら、いろいろな問題が一変に解決していきました。そういうことは自分で、現実の体験でありました。それで理論的にやるときには、心の留め金がカチンと外れるという言葉の後で思いついた訳です。心の留め金はいつもかかっているのが、何かの加減でカチンと外れると、困っていたことが即座に解決する解決策が湧き起ってきます。湧き起ってくるのは、ひらめきと同じで、基本的な哲学を持って雑多な知識を持ち、それを醸成させていくと突如としてひらめきます。突如としてひらめいた物が、私は本物だろうと思っています。

今日は是非、ひらめきの順序を頭の中に入れて頂ければよいと思います。ちょうど時間です。質疑応答の中でもし時間があれば、今日の新聞の説明を若干したいと思います。